

昔むかし、そのまた昔。あるところに、妻を亡くした男の人がいました。男の人には、娘がひとりありました。

やがて、男の人は美しい女の人と結婚しました。その人は、じつは魔女でしたが、だれもそのことを知りませんでした。娘は新しい母親によくなつきました。けれども、魔女のほうは娘をきらっていました。そして、いつか娘を殺してやろうと考えていました。

娘は、毎週日曜日になると、おばあさんのうちに出かけました。おばあさんは、海辺の小さな家にひとりで住んでいました。

あるとき、魔女は、海に向かって呪文を唱えました。

パイよ、立ちあがれ

海の底の足の長い化け物よ

かたむきかけたあばら家へ

すぐに獲物をとどけてやろう

魔女は家に帰ると、

「これでもう、あの娘の顔を見なくてもすむ」とひとりごとをいいました。

日曜日、娘はいつものようにおばあさんの所に行こうと家を出ました。海辺を歩いていると、ひとりの若者に会いました。

「こんにちは、むすめさん。どこへお出かけ？」

「おばあさんのうちよ」

「だったら、用心したほうがいいよ。おばあさんのうちで、海の悪い化け物がまちぶせしているから。そいつは、おばあさんを殺してしまったんだ」

娘がおどろいて、

「まあ、どうしたらいいのかしら」というと、若者はいいました。

「ぼくがついて行ってあげるよ。おばあさんのうちに着いたら、中へは入らずに、窓からのぞくだけにするんだよ。それからあとはどうしたらいいか、ぼくが教えてあげるから」

さて、おばあさんの家には、先にもう、たこの化け物パイが来ていました。パイは、おばあさんを殺してベッドに寝かせ、自分はベッドの下にもぐりこんで、娘が来るのを待ちかまえていました。

娘は、若者といっしょに、おばあさんの家にやって来ました。窓からのぞくと、おばあさんはベッドで寝ていました。ところが、声をかけると、おばあさんは、聞いたことのない声で返事を

しました。

「おばあさん、おばあさん。おかげんはいかが？」

「ああ、おまえ。中に入って来ておくれ」

「ちよつと待つて。おしっこしてからね」

「おしっこしたら、すぐに来ておくれ」

若者は、娘をそばの高い木の所に連れて行って、いいました。

「この木に登ってじつとしておいで。木の上なら安全だから。もうすぐ日が暮れる。そしたらぼくは海にもどらなくちゃいけない。ぼくは、魔法をかけられていて、昼間は人間だけど、夜は魚になってしまうんだ」

娘が、

「その魔法を解くことはできないの」ときくと、若者は、貝殻をひとつ娘に渡して、いいました。

「できるとも。もしきみのお母さんがやって来ておばあさんの家に入ったら、この貝殻を戸口のところに置くんだけ。できるかい」

「できるわ。ちゃんとやってみせる」

娘はそういって、貝殻を持って木に登りました。若者は、夕暮れの薄明りの中を、海のほうへ歩いて行きました。そして、海の水に触れたとたん、若者は、魚になって、見えなくなりました。魔女は、たこの化け物パイが娘をちゃんと食べたかどうか見に、おばあさんの家にやって来ました。

いっぽう、おばあさんの家では、パイが、いらいらしながら娘を待っていました。魔女が家の中に入って行くと、パイは魔女を娘だと思って飛びかかりました。魔女はびっくりぎょうてんして、戸口から逃げようとなりました。ところが、娘がすばやく、戸口に貝殻を置いたので、魔女はどうしても出ていくことができません。あつというまに、魔女はパイに食べられてしまいました。そのとき、海のほうから娘を呼ぶ声がしました。娘が海のそばまで走って行くと、魚が水から顔を出していいました。

「この指輪をはめて、おばあさんの家の窓から中に向かって、こう唱えるんだ。

海の底へおまえを封じこめよう

永遠にそこにとどまるがよい

こんどは、わたしが魔法をかけるのだ

みんなが平和に暮らせるように」

娘はいわれたとおりに、指輪をはめて窓の外から呪文を唱えました。たちまち、パイが飛び出して来て海の底へ沈んでいきました。そのとき、水から魚が上がってきて、若者の姿になりました。

た。若者は娘に、

「ありがとう。さあ、こんどはおばあさんを生き返らせよう。海の底から命の薬草を取ってきたよ」といいました。

ふたりは、おばあさんの体に薬草をぬりつけました。おばあさんは目を開けて、

「わたしは、なんだかこわい夢を見ていたよ」といいました。

それからまもなくして、娘と若者は結婚しました。若者は、魚や貝を取るのがとても上手でした。そして、いつも、村の人たちに嵐が来るのを前もって知らせました。ふたりは、りっぱな家を建て、おばあさんと楽しく幸せに暮らしました。

おはなしはこれでおしまい。

わたしに残ったものは、魚のしっぽだけ。

村上郁再話

資料『世界の民話31カリブ海』瀬戸武彦・伊藤富雄・持尾伸二訳／ぎょうせい